

Economic Indicators

発表日: 2023年5月23日(火)

機械受注統計調査(2023年3月)

～非製造業は好調も、製造業の下振れリスクは大きい～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

(単位: %)

		民需 (船舶・電力除く)			代理店	官公需	外需
		製造業	非製造業 (船舶・電力除く)				
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
22	1-3月	▲ 2.7	1.3	▲ 5.2	▲ 10.8	▲ 4.2	▲ 6.7
	4-6月	6.7	5.7	6.9	10.4	4.0	22.6
	7-9月	▲ 1.6	▲ 2.8	▲ 0.4	▲ 3.7	▲ 8.4	▲ 12.8
	10-12月	▲ 4.7	▲ 10.6	2.1	1.4	▲ 3.6	2.4
23	1-3月	2.6	1.9	3.2	0.1	19.9	▲ 21.4
	4-6月(見)	4.6	▲ 0.6	9.2	▲ 5.0	9.3	8.7
22	1月	▲ 1.7	▲ 5.5	0.2	▲ 0.6	▲ 12.8	▲ 0.6
	2月	▲ 8.1	▲ 0.5	▲ 11.0	▲ 14.8	▲ 4.8	▲ 0.6
	3月	6.3	6.1	9.7	18.8	43.6	▲ 14.5
	4月	8.4	5.9	6.8	2.6	▲ 7.0	46.0
	5月	▲ 4.5	▲ 7.6	▲ 3.7	5.8	▲ 14.0	▲ 9.2
	6月	0.6	3.9	1.4	▲ 6.6	▲ 0.5	▲ 0.7
	7月	3.8	▲ 4.6	11.2	▲ 3.2	▲ 11.4	▲ 2.3
	8月	▲ 4.6	6.3	▲ 16.6	1.9	16.2	▲ 14.7
	9月	▲ 3.2	▲ 6.3	3.5	2.9	▲ 3.8	9.0
	10月	3.5	▲ 4.1	9.0	▲ 1.4	0.3	▲ 2.1
	11月	▲ 6.7	▲ 8.0	▲ 2.1	0.4	▲ 5.0	1.2
	12月	0.3	2.5	▲ 3.2	0.1	▲ 8.5	10.5
23	1月	9.5	▲ 2.6	19.5	2.8	5.4	▲ 25.2
	2月	▲ 4.5	10.2	▲ 14.7	▲ 6.8	45.8	2.3
	3月	▲ 3.9	▲ 2.4	▲ 4.5	5.4	▲ 15.5	▲ 10.5

(出所) 内閣府「機械受注統計」

○機械受注は停滞感が強い

内閣府から発表された23年3月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は前月比▲3.9%と、2か月連続の減少となった。1-3月期でみると前期比+2.6%と3四半期ぶりに増加に転じたが、22年後半から続く落ち込みの後の戻りとしては弱い。非製造業は国内サービス需要の回復を背景に持ち直し傾向にある一方で、海外経済の減速懸念を受けて製造業は低迷状況が続いており、機械受注全体としても停滞感の強い状態が続いている。

○非製造業は増加傾向も、製造業受注は低迷が続く

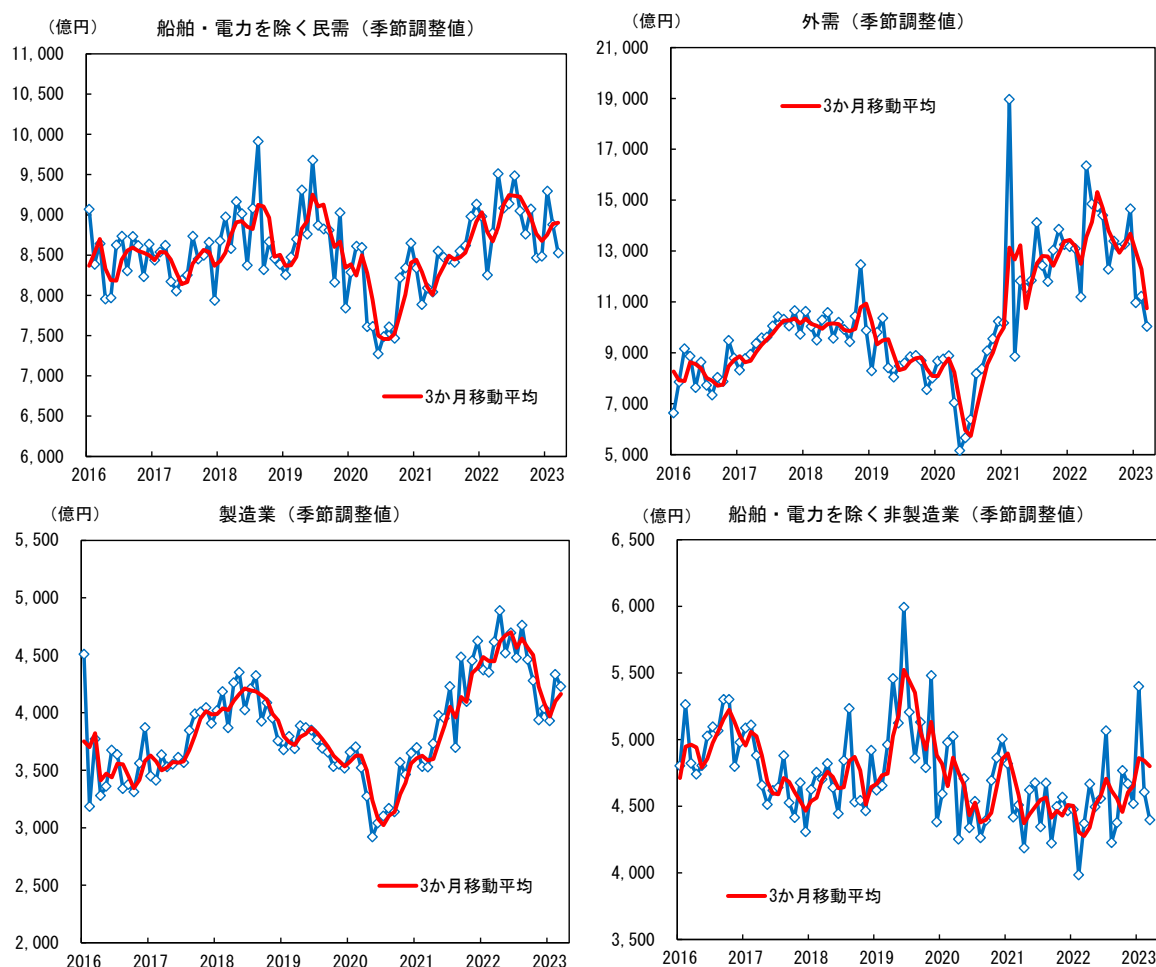
民需(船舶・電力除く)の内訳をみると、製造業は前月比▲3.9%、非製造業は▲4.5%となった。非製造業(除く船舶・電力)については2か月連続の減少となったが、1月に前月比+19.5%の大幅増加となった反動が2月、3月に出ているものとみられ、緩やかな持ち直し基調は崩れていない。非製造業の1-3月期は前期比+3.2%(22年10-12月期:同+2.1%)と2四半期連続の増加となっており、1-3月期の内閣府見通しを大きく上回った。今回同時に公表された4-6月期の内閣府見通しでも前期比

+9.2%と高い伸びが続くことが見込まれており、非製造業受注は好調だ。国内における経済活動の正常化に伴い、これまで回復が遅れてきたサービス業種の業績改善を背景に、非製造業は先行きも増加傾向が続くことが期待できるだろう。

一方で、製造業は伸び悩みが続いている。3月の製造業は、前月に大型案件の受注で上振れていた非鉄金属の反動で押し下げられ、2か月ぶりの減少となった。1-3月期で見ると前期比+1.9%と3四半期ぶりの増加に転じており、これまでの減少傾向から一旦の下げ止まりが見られるが、22年10-12月期（前期比▲10.6%）の落ち込みの後の戻りとしては弱い。欧米の景気減速懸念が高まる中で、企業の慎重姿勢は強い状態が続いていることが示唆される。4-6月期の内閣府見通しでも製造業は前期比▲0.6%の減少が見込まれており、目先も停滞感の強い状況が続きそうだ。

また、製造業は輸出の影響を受けやすい。資本財輸出の先行指標と言われる外需については、1-3月期は前期比▲21.4%と大幅な減少となった。22年7-9月期以降の外需は明確に減少傾向にあり、今後も欧米諸国を中心とした世界経済の減速で当面弱い動きが続くとみられる。製造業受注もこうした世界経済の減速による下押し圧力がかかる可能性が高く、先行きの下振れリスクは大きい点に注意が必要である。

機械受注の先行きについては、非製造業は増加傾向が続く中、海外経済の減速による下押しで製造業は停滞感の強い状況が続き、緩慢な増加ペースに留まるだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。